

学力向上拠点形成事業（確かな学力育成のための実践研究事業）

平成17年度 中間報告 【美濃加茂市】

推進地区の概要（平成18年3月現在）

推進地区名	美濃加茂市					
推進校（校数）	小学校	3校	中学校	1校	計	4校
推進校（校名）	美濃加茂市立山之上小学校・蜂屋小学校・伊深小学校					
	美濃加茂市立西中学校					

研究のねらい

当市では、市民連携による生きてはたらく力の育成をめざし『みのかも教育21 - フロム0歳プラン』を策定した。このプランは、

- （1）0歳から幼保小中高の積み上げを大事にした「ロングスパン教育」
- （2）学習の場や他者との関わりの機会を広げる「面による指導の充実」
- （3）生きてはたらく真の学力をつけるための「授業改革」

を重点にしたものである。

その中で、学力向上の取り組みについては、特に上記の（3）を中心に実践を重ね、児童生徒に一層確かな学力を身に付けることをねらっている。そのために、基礎・基本の徹底と確かな学力の育成 個性の一層の伸長 各教科における「学び方」の習得を共通課題として、「磨き合う授業づくり」を核にして「授業改革」に取り組んできた。

この取り組みの評価の1つの場として、校長会代表（委員長）、副委員長（教頭会代表）、小・中学校教科別代表（委員）から成る評価委員会を設置し、「学力状況調査」並びに「生活・学習に関する意識調査」からの結果分析を行い、指導法の工夫改善に生かしてきた。

この分析の結果、全市にわたる具体的な課題として、問題解決能力（自ら課題を見つけ、その課題を自らが解決する力の育成）の育成が明らかとなってきた。本市では、この課題を克服していくために、以下の視点で学力向上の方策を進めていきたいと考え実践を行ってきた。

教育課程の工夫改善

指導方法の工夫改善

指導内容の検討

外部人材の活用

外部評価の有効的なあり方と活用の工夫

研究の概要

ア 研究の進め方

- ・ 特定の教員だけが取り組むのではなく、学校として組織的・計画的な取り組みを推進し、研究に関わる情報やノウハウの共有化を学校単位、地区単位で進めることにした。
- ・ 推進校を指定し近隣の学校を協力校として推進校と連携・協力を図りながら研究を進めることにした。
- ・ 目的は、実践研究の普及である。（刊行物、公表会の義務は無い）但し、常時あらゆる

手段で情報発信をしていく。(逍遥ネットの活用・ホームページの活用など)

イ 推進校を核にした協力校との関わり

H17.10現在

推進校	群としての研究主題	協力校	研究の概要
山之上小学校	算数数学・英語を核に基礎基本の定着と共生力育成	山之上小	基礎基本、学習習慣の定着
		古井小	基礎基本、学習過程・指導方法の改善
		下米田小	わかる場を通して「ともに生きる」
		東中	朝読書、学びの基盤づくりと集団づくり
蜂屋小学校 西中学校	総合的な学習や理科を核に思考力や判断力の育成	蜂屋小	理科、考えを練り上げ思考力を高める
		太田小	考えがもてる、深め合う交流、振り返り
		加茂野小	自ら課題をみつけ、解決する力
		山手小	算数、理科 思考力、判断力
		西中	基礎学力の定着
伊深小学校	国語・読書を核に表現力、人間関係力の育成	伊深小	国語(音読、朗読)表現力の向上
		三和小	言語意識の位置づけ、自分の考えを表現
		双葉中	基礎基本、自ら学び自ら考える力

上記の表は、H17年10月作成されたものである。当初、各校の研究主題をもとに、最大公約数を明らかにし、その上で群の編成を行うことを考えていたが、研究教科の違いで群に偏りができてしまったり、中学校区をはずして組んでいくと共通理解が深まりにくいとの考えから、中学校区での群を考えるようになってきた。

ウ H17年度学力向上推進委員会の歩み

月日	流れ	内容	備考
8/5	第1回学力向上推進委員会 推進委員(各学校教務主任)	自校の実践研究の内容の確認と進捗状況について説明	教務主任会を兼ねる 経費についての説明
9/6	<経費処理状況提出1>		8月末までに、各校で支出計画を作り報告。必要があれば支出してもよい。
	第2回学力向上推進委員会 推進委員(各学校教務主任)	進捗状況の交流と共通理解すべき点の確認 指導者からの助言	教務主任会を兼ねる
11/30	第3回学力向上推進委員会 推進委員(各学校教務主任)	進捗状況、実践の交流 指導者からの助言	教務主任会を兼ねる
2/7	第4回学力向上推進委員会 推進委員(各学校教務主任)	来年度への流れの確認 指導者からの助言	臨時教務主任会を実施して、来年度の方向性を示す。

4回的美濃加茂市学力向上推進委員会が開かれた。当初は、本事業の主旨の理解など共通理解を図るのが難しく、第2回、3回の推進委員会では、各校の実践交流(進捗状況の交流)がなされたが、質的な深まりは難しかった。第4回目では、来年度の方向性を話し

合う中で、徐々に推進委員が互いの質問や意見を出し合い、理解が深まってきたと感じられた。

エ 研究構想図の作成

上記の推進校と協力校との関わりの変容や推進委員会等での共通理解の深まりの中で、本事業の構想図についても工夫改善を行ってきた。

成果と課題

市の教育課題を受け、群のテーマをより明確にし、実践の方途の共通理解図ることで、学力向上への取り組みの方向が明らかになるとともに、実践 検証 実践のサイクルの足がかりができた。

市独自で学力調査や意識調査を行うことによって、児童生徒の実態把握への意識が高まり、指導法の工夫改善や教育課程の編成に生かされるようになってきた。

H17年度 美濃加茂市 学力状況調査と学習意識調査の結果から
小中学校ともに児童生徒の登校意識（学校が楽しいと感じている子ども）が高いこと
その理由として

- ・子どもたちの教師への信頼度が高いこと
- ・学習の達成度（充実度）が高いこと（分かった喜び、自分が成長したと感じる喜び）
- ・一人一人の読書量が多いこと

などが成果として明らかとなっている。

外部指導者の招聘や学習の場を広げる活動が活発化し、「面による指導」での学習のバリエーションが豊かになり、児童生徒に多様な見方や考え方を伸ばす教育課程の工夫が図られるようになってきた。

児童生徒一人一人に一層、主体的に学ぶ力や問題解決能力を育てるために

- ・市全体で家庭学習の手引きをつくるなど、家庭学習の充実を図る指導を行う。
- ・教職員研修会などの場を利用し、市や群の研究主題に関わった講演会や研修会を意図的に位置付け研修を深める。
- ・市の道徳ネットや各学校のHPを積極的に活用して、より質の高い実践の交流を行っていく。